



# 急な病気やケガで



すぐに  
救急車？



夜間だけど  
病院？



©わんこきょうだい

## 迷ったら電話で相談

シャープ

#

なな

7

いち

1

いち

1

きゅう

9

ダイヤル回線・IP電話は **019-656-1774** ※県内全域で利用可。いずれも通話料がかかります。

岩手県救急安心センターの開設に伴い、**看護師等が相談に対応します**  
いわて発熱等相談センターを廃止します。

**24時間・365日**

令和7年**4/1**のから

15歳未満のお子様の  
急な病気やケガで困ったら

小児救急  
医療相談

#8000



**緊急時は迷わず119番へ**



令和7年4月1日(0時)から救急医療の電話相談窓口を開設します。  
それに伴い、いわて発熱等相談センターは令和7年3月31日を以て廃止いたします。



# 岩手県救急安心センター



®わんこきょうだい



24時間 365日 対応

ダイヤル回線・IP電話は  
**019-656-1774**

※県内全域で利用可。いずれも通話料がかかります。

#に続いて7119を押してください

## 相談内容

- ・救急電話相談、小児救急医療相談
- ・新型コロナウイルス感染症に関する相談  
(これまでの発熱等相談にも対応)

緊急時は  
迷わず  
119番へ

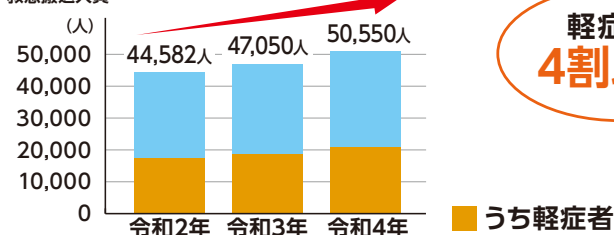
## 相談できないもの

- ・服薬、治療方針、介護相談、健康相談、育児相談、  
セカンドオピニオンなど

## 救急搬送人員に占める軽症者数の割合(令和4年)

■ 軽症者数: 21,285人 (42.1%)

救急搬送人員



(出典: 令和4年版消防庁救急救助の現況及び令和4年県防災消防年報)

軽症者が  
4割以上

令和4年  
救急搬送人員  
**50,550人**

本県の救急車による搬送人数は年々増加しており、令和4年には5万人を超え、軽症割合が4割以上となっています。緊急性が高いときには救急車の要請を、そうでないときは症状等に応じたタイミングで医療機関を受診することで、緊急性の高い方へいち早く医療が行き届くようになります。



15歳未満のお子様の急な病気やケガで困ったら /

## 小児救急医療相談

365日  
対応



ダイヤル回線・IP電話は  
**019-605-9000**

電話対応時間

午後7時から  
翌朝午前8時まで

相談する医療機関に迷う場合や  
「かかりつけ医」がない場合のご相談は

県民医療相談センター 019-629-9620

平日・日中 (9時~12時、13時~16時)

## 感染症の動向

岩手県感染症情報センター岩手県感染症週報令和7年第51週（12月15日～12月21日）より抜粋

### 【百日咳】

岩手県では2025年に入って報告数が増加しています。2025年第1週から第51週までの報告数は速報値（※）で1,489例であり、**2018年以降で2025年が過去最大の報告数**となる見込みです（図1及び図2）。

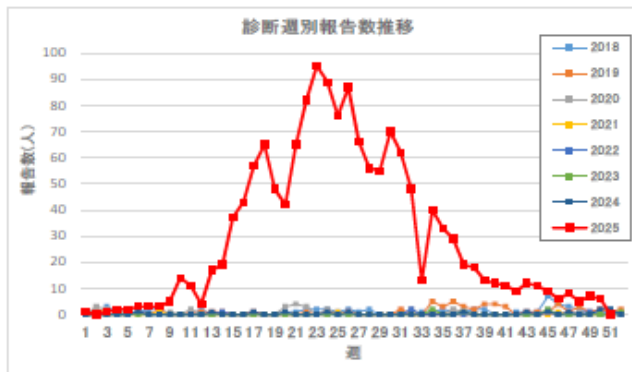


図1 岩手県の百日咳の診断週別報告数推移  
(2018年～2025年第51週)

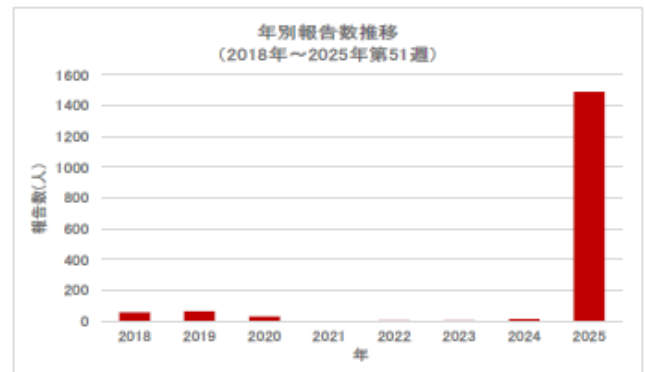


図2 岩手県の百日咳の年別報告数推移  
(2018年～2025年第51週)

※診断週別報告数と速報値は、必ずしも一致するものではありません。

（※）データは報告数集計の速報値として公開するものであり、後日感染症発生動向調査週報、さらには確定データとしての年報において修正される場合があります。

地域別でみると、今年は**盛岡市、県央、久慈地区で報告が多くなっています**（表1）。年齢階層別でみると、最も多いのが**10代で、全体の約半数を占めています**（表2）。

百日咳の対策については、特に重症化予防の観点から、定期接種の対象年齢（月齢）に達した乳児はすみやかに百日咳抗原含有ワクチンの接種を受けることが最も重要です。また、地域で百日咳が流行している状況下では、特に乳児や妊婦が周辺にいる、成人を含む小中高生より上の年代において、長期の咳が持続する場合は、百日咳の可能性を念頭においた医療機関の受診や予行動をとってください。

表1 岩手県における百日咳の地域別報告数

地域別	盛岡市	県央	中部	奥州	一関	大船渡	釜石	宮古	久慈	二戸	計
2025年 51週	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1～51週 累計	506	301	110	85	76	31	42	83	150	105	1489

表2 岩手県における百日咳の年齢階層別報告数

年齢階層別	0歳	1～4歳	5～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
2025年 51週	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1～51週 累計	22	52	383	729	31	64	101	41	24	42	1489

### 【参考】

百日咳（厚生労働省）[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/whooping\\_cough.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/whooping_cough.html)

百日咳（国立健康危機管理研究機構）<https://id-info.ijhs.go.jp/diseases/ha/pertussis/010/index.html>

## 【インフルエンザ】

岩手県では、例年 11 月下旬から 12 月頃に流行入りし、1 月から 3 月頃に患者数が増加します。コロナ禍であった 2020/21 シーズンの報告数は患者実数（※注）で 6 人、2021/22 シーズンは同 9 人で、流行開始の目安である定点あたり患者数 1.0 人を上回ることなく低調でした。2024/25 シーズンは第 46 週に流行入りし、第 51 週に警報値（30 人）を超え、第 52 週にピーク（45.94 人）となりました。**2025/2026 シーズンは、第 41 週に流行入りしました。第 44 週には注意報が、第 45 週には警報が発令されました。**

主な感染経路は、咳やくしゃみ、会話などから発生する飛沫による感染（飛沫感染）と、飛沫の付着物に触れた手指などを介した接触感染です。予防には、マスク着用などの咳エチケットによる飛沫感染対策と、手洗いによる接触感染対策が挙げられ、この他にワクチン接種が効果的です。ワクチンによる予防効果が現れるまでに 2 週間程度かかるため、早めの接種が勧められます。

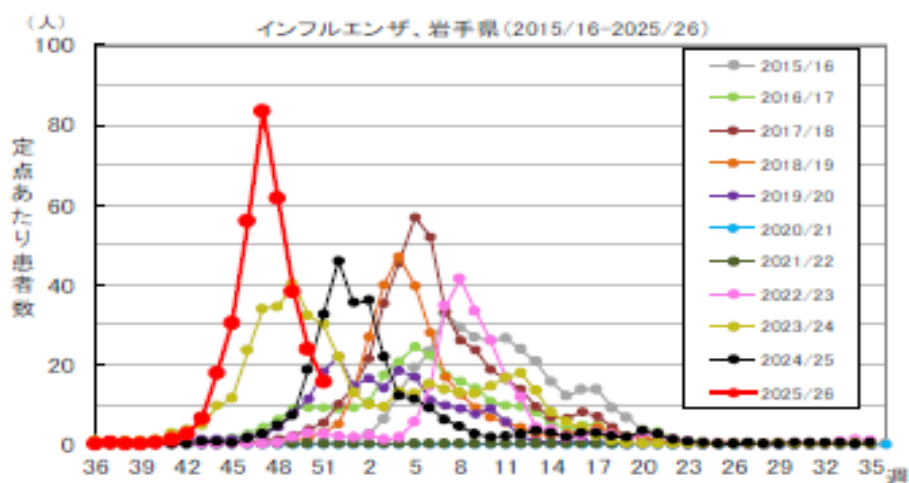


図1 岩手県のインフルエンザの発生状況

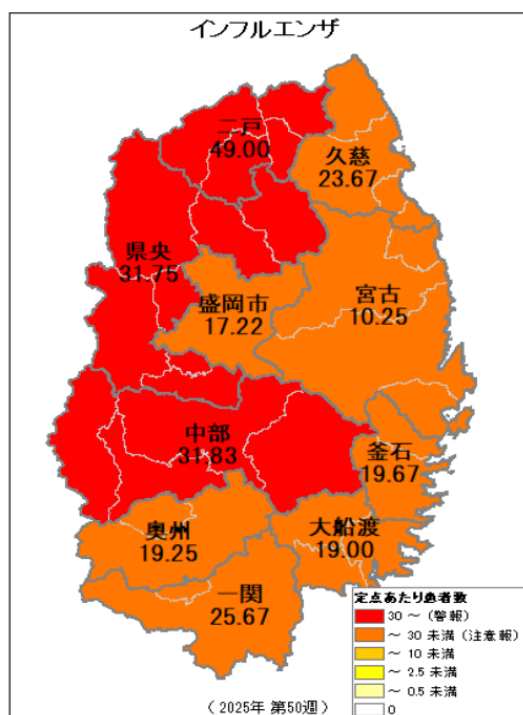


図2 第50週の保健所管内別状況

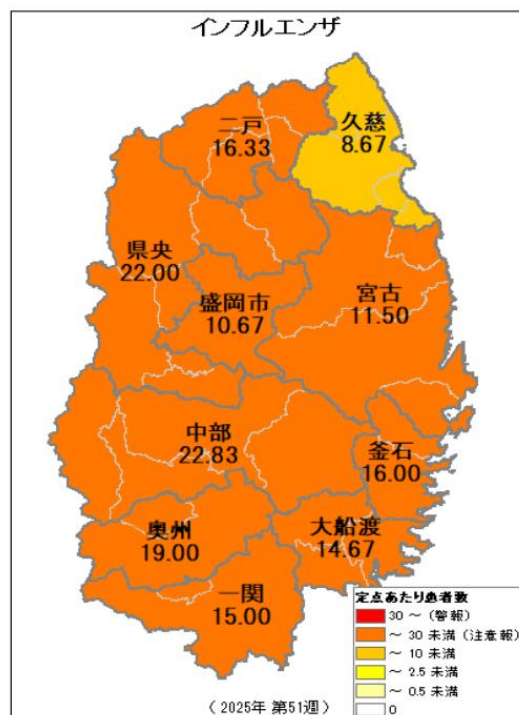


図3 第51週の保健所管内別状況

# クマ鈴及びクマスプレーの貸与について

小学生の登下校や学校等における野外活動の安全対策をサポートします！



○クマ鈴は、歩くと音が鳴り、クマに人間の存在を知らせてくれます。クマは人間を避ける習性があるので、クマ鈴をつけることでクマとの遭遇を防ぐことができます。

○クマスプレーは、クマと遭遇したときに使う非致死性の防御用スプレーです。クマに向かって噴射すると、辛い刺激でクマを撃退することができます。

○どちらも、小学校の集団登下校、登山やハイキングなどの野外活動をする人たちに無料で貸与します。貸与期間、方法等は別添実施要領のとおりです。

○貸与を希望する方は、まず以下の申込先までお電話でお問い合わせください。受付時間は、平日の9時～17時となります。

○貸与するクマ鈴やクマスプレーは、必ず以下の申込先まで返却してください。なお、汚れた場合には清掃してから返却してください。

申込先 盛岡広域振興局保健福祉環境部環境衛生課環境チーム

電話番号 019-629-6563 FAX 019-629-6594

URL <https://www.pref.iwate.jp/morioka/hoken/1074920.html>